

辞書を積極的に活用する

森 千鶴 (福岡教育大学)



「自ら学ぶ力」と辞書活用

新学習指導要領の理念は「生きる力をはぐくむこと」である。この理念は現行の学習指導要領の理念を引き継いだものであるが、内容はより具体的なものになっている。「生きる力」を説明した文の中でも特に目を引くのは、「自ら課題を見つけ、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」という表現である。これらは、「学習者が自ら学ぶ力」を育てることを念頭に置いているのである。英語科における「自ら学ぶ力」といえば、まずは「予習や復習の習慣づけ」であろうが、次にはやはり「辞書の活用」が思い浮かぶ。実際に、新学習指導要領では現行の学習指導要領よりも「辞書指導の必要性」がさらに強調され、「・・・生徒が適宜辞書を繰り返し使用し、調べたい単語を辞書を使って自由に調べるということを普段から行わせる必要がある」と書かれている。

「習うより慣れよ」—段階的辞書指導

24NC では、新学習指導要領に書かれている内容を受けて、辞書指導に関しても充実したつくりとなっている。三段階構成となっており、学習者が一度に「学ぶ」のではなく、少しずつ「慣れる」ことを目指している。

まず第一段階として、BOOK 1 の Lesson 1 から Lesson 4 までに出てくる単語は、巻末「単語の意味を確認しよう」に出現順にまとめてある。たとえば Lesson 1 の新出単語(I, am, hello, excuse...) が、そのとおりの単語の順で日本語の意味が載せてある。これは英語の書き言葉を初めて学ぶ学習者の負担を軽減するためである。

次に第二段階として、Lesson 4 の後には、巻末にまとめてある「単語の意味」の使い方が説明されている。ここからは、「単語が出てくる順番ではなく、アルファベット順に提示されています」(辞書形式)ということ伝えるためである。ここでは「アルファベット順」であることに加え、巻末「単語の意味」の基本的なつくり(「見出し語」「発音表記」「品詞」「意味」「ページ数」)が説明されている。たとえば、Lesson 3 に出てきている play という単語を例にとってみよう。「単語の意味を確認しよう」で調べると、「遊ぶ」とだけ書いてある。しかし、アルファベット順に並んでいる辞書形式の「単語の意味」で調べると、「play [pléi] 動 1. (スポーツ・ゲームなどを)する、～ごっこをする；(～の)試合をする。2. (音楽・楽器を)演奏する。3. 遊ぶ。」とある。学習者はまず発音と品詞を確認する。次に、同じ「動詞」であっても、いろいろな意味があることを理解する。しかも、本文で使われている I play it (kendama) every day. は単に「遊ぶ」というのではなく、「(ゲームなどを)することで遊ぶ」という意味合いであることも分かる。

さらに第三段階として、Lesson 6 の後には「辞書で単語の意味を引こう」というページが準備されている。教科書巻末の「単語の意味」が辞書形式であるために、学習者はここまでのところで辞書の形式にかなり慣れていることが期待される。それに加えて、Lesson 7 から USE Read (まとまった分量の読み物)が始まることもあり、ここで本格的な辞書活用の方法を提示しているのである。注意点として再度、辞書はアルファベット順に並んでいることと、原形 (draws ではなく draw) で提示されていることが示される。そののち辞書も、「見出し語」

「発音表記」「品詞」「意味」という順番で記載されていることが示される。さらに辞書活用の難関であり、巻末「単語の意味」と辞書の最大の違いとしても挙げられるのが、「文の内容に合う訳語を探し、意味を決める」ということである。「単語の意味」では一つの単語に複数の意味がある場合、そのそれぞれに教科書の出現ページが記載されていたのに対して（たとえば play であれば、「(スポーツを)する 33, (楽器を)演奏する 37」）、辞書では当然のことながら、自分で文脈にふさわしい意味を探さなければならない。そこで、ここではその方法が、draw という典型的な多義語を用いて説明されている。

やはり辞書指導を！

24NC はこのように、辞書指導に関して、教科書そのものを用いれば段階的に指導できるようになってきている。とはいえ、これらのページを用いて「説明」を行っても、実際に通常の授業でどのように辞書指導するのかはまた別の問題である。ここでは中学校教諭の優れた実践の一つを紹介する。

内田信也教諭（1999年当時、福岡教育大学附属小倉中学校）の実践における Personal File である。Personal File とは、「自らの表現に必要なだと生徒自身が思った語彙を中心に自分で辞書を使って収集」したコミュニケーション用の自分専用辞書のことである（内田，1999）。中学校1年生の授業で、次の手順で指導を行った。

まず、「Let's Try! 英和辞書を使ってみよう」というテーマで授業を行い、その後1週間毎回15分程度を辞書の時間にあてた。次に、「What's 'Personal File'? 引いた単語は記録しよう」として Personal File のねらいと記入の仕方を説明した。最後に、「This is my 'Personal File'. 友達と交流し合おう」として、感想を述べ合う機会を与えた。Personal File で調べる単語は教科書以外でもよいとし、特に限定はしていないが、自分の調べたい単語を毎日一つずつでよいから辞書で調べ、File を作成するようにすすめた。生徒の作った File の中から実例を紹介すると、たとえば hello であれば、発音記号や品詞、意味（「やあ、こんにちは(気軽なあいさつ)」）のほかに、いわゆる語法(電

話では『もしもし』にあたる。『ただいま』『お帰りなさい』の場合にも使う!!) など、自分の興味ある事項を書き入れている。内田教諭は文化的な背景や語源について調べて書き入れてもよいとしている。

辞書は指導するのも、実際に引くのも「面倒なこと」の代名詞のように考えられがちである。しかし上記の実践のように、まずは教科書巻末を使うなどして辞書形式に慣れさせ、次第次第に辞書を引くことそのものに、さらには英語自体にも興味を持たせることは可能である。学習者がいったん使い方を覚えて単語の意味を調べ、1文でも英文の意味が分かれると、パズルが解けた時のような達成感が得られる。もちろん、自己表現にもつながる。それこそが「自ら学ぶ力」の源といえるであろう。

辞書で単語の意味を調べよう

① 次の単語をアルファベット順に並べよう。

cat cap beautiful coach bag

② 次の文の'draws'の意味を、辞書で調べよう。

☞ Koji draws pictures very well.

③ 辞書で単語の意味を調べるときには、次の点に注意しよう。

[1] 単語はアルファベット順に並んでいます。

[2] draw は動詞の原形(もとの形) draw に -s をつけて、「3人称単数現在形」になっています。draws を辞書で調べるときには、-s を取り、動詞の原形 draw で探します。

- A 見出し語
アルファベット順に並んでいます。
- B 発音表記
- C 品詞
略語で示してあります。
☞ → 名詞、☞ → 動詞
- D 意味

④ 見出し語の draw が見つかったら、品詞の部分を見よう。

見出し語の draw の品詞には動詞と名詞とがあります。例文の draws は動詞ですので、動詞の説明を見ます。

⑤ 文の内容に合う訳語を探し、意味を決めよう。

例文では、draws のあとに pictures「絵、写真」がきますので、見出し語 draw の動詞の訳語として「(絵を)かく」という意味が文の内容に合います。

例文は、「ゲームはとても上手に絵をかきます」という意味になります。

⑥ 次の下線の語の意味を、辞書で調べよう。

These chairs have special wheels.



draw [drɔ: 'rɔ-]

動 (線を引く、絵をかく)
引く、引き寄せる

☞ ① (線を)引く; (鉛筆(品))・ペン・クレヨンなどで絵などをかく。☞ ② (画) paint は「絵の具で絵をかく」。

☞ ③ 引くこと。
☞ ④ 引き分け(試合)。
☞ The game ended in a draw.
その試合は引き分けに終わった。

BOOK 1 p.75 辞書指導のページ

【参考文献】

内田信也 (1999) 「表現力を伸ばす指導過程の研究 III. 学習ストラテジーの実践」『研究紀要』第 12 号. 福岡教育大学教育学部・三附属中学校.